MAETA KANJI

生誕一三〇年
一九三〇年協会設立一〇〇年

前田寛治

ポエジイとレアリスム

Poesy and Realism

In Commemoration of his 130th Birth
and the Centennial of the 1930 Society

2026.7.4 [土] — 8.30 [日]　東京ステーションギャラリー

休館日：月曜日（ただし7/20、8/10、8/24は開館）、7/21（火）　開館時間：10:00–18:00（金曜日–20:00）＊入館は閉館30分前まで
主催：東京ステーションギャラリー（公益財団法人東日本鉄道文化財団）、NHKプロモーション　協賛：T&D保険グループ
前田寛治《白い服の少女》1928年　鳥取県立美術館

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

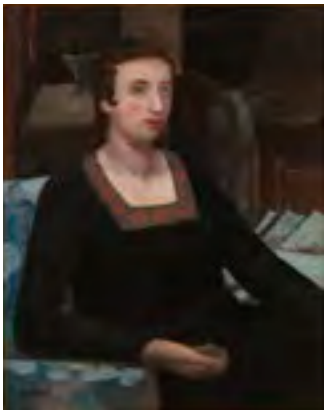
東京 TOKYO STATION CITY

JR東日本

洋画壇の若き闘将
前田寛治
18年ぶりの大回顧展

前田寛治《子供の顔［棟一郎］》1930年　個人蔵

前田寛治《福本和夫像》1927年　鳥取県立美術館


前田寛治《黒衣婦人像》1925年　東京国立近代美術館

前田寛治《海》1929年頃　山陰合同銀行

前田寛治《棟梁の家族》1928年　鳥取県立美術館

前田寛治（まえた・かんじ／1896－1930）は日本の近代洋画界に大きな足跡を残した画家です。前田は1921（大正10）年に東京美術学校を卒業、翌年に渡仏して2年半ほど滞在し、その間、近代以降のフランス絵画を冷静に見渡しながら、自らの絵画と思想を確立しようとします。1925年に帰国、帝展で特選を重ね、1929（昭和4）年に帝国美術院賞を受賞しました。また、1926年に一九三〇年協会の結成に参加し、この会の中心的な人物となり、実験的な作品を発表します。さらに美術雑誌への寄稿や講演などで絵画論を展開、密度の濃い制作を実践し、後進への指導もしました。まさに時代の寵児ともいえる活躍ぶりでしたが、1929年5月に腫瘍が判明、翌年4月に33歳という若さで亡くなりました。しかし、その短い画業において、詩的感性と西洋絵画の伝統を踏まえた写実性の融合を追求しながら、自らの芸術を多彩に花開かせたのです。本展では、前田の油彩約80点や素描類、一九三〇年協会の仲間たちの出品作品や各種資料なども紹介しながら、前田芸術の意義を再検証します。

一九三〇年協会：

前田寛治は、一緒にパリの空気を吸った4人の若き画家仲間である里見勝蔵、小島善太郎、佐伯祐三、木下孝則とともに、日本における新しい油彩画の創造を目指す美術団体「一九三〇年協会」を1926年に設立。個性豊かな面々による、特定の主義主張を掲げないこの会には、次代の新鋭たちが次々に参加し、画壇の新勢力として注目を浴びました。しかし1930年の第5回展をもって活動は終了しました。

佐伯祐三《広告（アン・ジュノ）》1927年　大阪中之島美術館

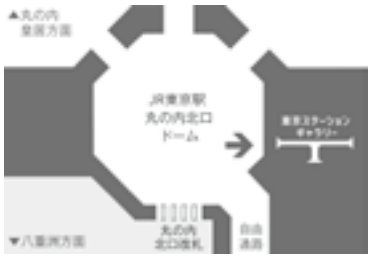
入館料

一般：1,600（1,400）円
高校・大学生：1,100（900）円
中学生以下：無料

オンラインチケット

＊障がい者手帳等持参の方は、一般：1,100（900）円、
　高校・大学生：900（700）円［ともに介添者1名は無料］
＊（　）内は前売料金［6/1–7/3、オンラインチケットで販売］
＊当日券・前売券はオンラインチケットwww.e-tix.jp/ejrcf_gallery/ で販売
＊当日券は当館1階でも販売
●会期中、一部作品の展示替えをおこないます
●都合により開催内容が変更になる場合があります
●最新情報や関連イベントは当館ウェブサイトで随時ご案内します

次回展：水滸伝　2026年9月19日（土）–11月8日（日）



東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1［JR東京駅 丸の内北口 改札前］
Tel：03-3212-2485　https://www.ejrcf.or.jp/gallery/

MAETA KANJI

生誕一三〇年
一九三〇年協会設立一〇〇年

前田寛治

ポエジイとレアリスム

Poesy and Realism

In Commemoration of his 130th Birth
and the Centennial of the 1930 Society

2026.7.4 [土] — 8.30 [日]　東京ステーションギャラリー

休館日：月曜日（ただし7/20、8/10、8/24は開館）、7/21（火）　開館時間：10:00–18:00（金曜日–20:00）＊入館は閉館30分前まで
主催：東京ステーションギャラリー（公益財団法人東日本鉄道文化財団）、NHKプロモーション　協賛：T&D保険グループ
前田寛治《子供の顔［株一郎］》1930年、個人蔵

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

東京 TOKYO STATION CITY

JR東日本

洋画壇の若き闘将
前田寛治
18年ぶりの大回顧展

前田寛治《白い服の少女》 1928年　鳥取県立美術館

前田寛治《物を喰う男》 1924年　鳥取県立美術館

前田寛治《C嬢》 1926年　個人蔵

前田寛治《海》 1929年頃　山陰合同銀行

前田寛治《棟梁の家族》 1928年　鳥取県立美術館

前田寛治（まえた・かんじ／1896－1930）は日本の近代洋画界に大きな足跡を残した画家です。前田は1921（大正10）年に東京美術学校を卒業、翌年に渡仏して2年半ほど滞在し、その間、近代以降のフランス絵画を冷静に見渡しながら、自らの絵画と思想を確立しようとします。1925年に帰国、帝展で特選を重ね、1929（昭和4）年に帝国美術院賞を受賞しました。また、1926年に一九三〇年協会の結成に参加し、この会の中心的な人物となり、実験的な作品を発表します。さらに美術雑誌への寄稿や講演などで絵画論を展開、密度の濃い制作を実践し、後進への指導もしました。まさに時代の寵児ともいえる活躍ぶりでしたが、1929年5月に腫瘍が判明、翌年4月に33歳という若さで亡くなりました。しかし、その短い画業において、詩的感性と西洋絵画の伝統を踏まえた写実性の融合を追求しながら、自らの芸術を多彩に花開かせたのです。本展では、前田の油彩約80点や素描類、一九三〇年協会の仲間たちの出品作品や各種資料なども紹介しながら、前田芸術の意義を再検証します。

一九三〇年協会：

前田寛治は、一緒にパリの空気を吸った4人の若き画家仲間である里見勝蔵、小島善太郎、佐伯祐三、木下孝則とともに、日本における新しい油彩画の創造を目指す美術団体「一九三〇年協会」を1926年に設立。個性豊かな面々による、特定の主義主張を掲げないこの会には、次代の新鋭たちが次々に参加し、画壇の新勢力として注目を浴びました。しかし1930年の第5回展をもって活動は終了しました。

佐伯祐三《広告（アン・ジュノ）》 1927年　大阪中之島美術館

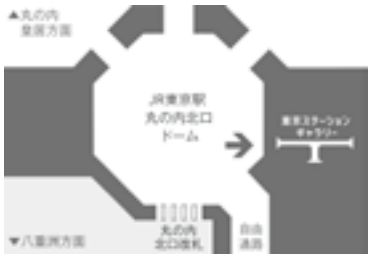
入館料

一般：1,600（1,400）円
高校・大学生：1,100（900）円
中学生以下：無料

オンラインチケット

＊障がい者手帳等持参の方は、一般：1,100（900）円、
　高校・大学生：900（700）円［ともに介添者1名は無料］
＊（　）内は前売料金［6/1–7/3、オンラインチケットで販売］
＊当日券・前売券はオンラインチケットwww.e-tix.jp/ejrcf_gallery/ で販売
＊当日券は当館1階でも販売
●会期中、一部作品の展示替えをおこないます
●都合により開催内容が変更になる場合があります
●最新情報や関連イベントは当館ウェブサイトで随時ご案内します

次回展：水滸伝　2026年9月19日（土）–11月8日（日）



東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY

〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1［JR東京駅 丸の内北口 改札前］
Tel：03-3212-2485　https://www.ejrcf.or.jp/gallery/